

「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどう考えるか？
(二観点評価の提案) 西岡加名恵先生(京都大学教育学研究科 教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



西岡加名恵

にしおか かなえ

京都大学大学院教育学研究科 教授

University of BirminghamにてPh.D. (Ed.) を取得。鳴門教育大学講師等を経て、2017年より現職。専門は教育方法学（カリキュラム論、教育評価論）。日本学術会議第26期会員、文部科学省中央教育審議会教育課程部会臨時委員など。

主な著書：『教科と総合学習のカリキュラム設計』（単著、図書文化、2016年）、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』（編著、明治図書、2016年）、『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（共編著、日本標準、2019年）、『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』（編著、学事出版、2020年）など。





文部科学省
今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の
在り方に関する有識者検討会

学習評価の在り方からカリキュラム改善を考える

2024年4月26日
京都大学 西岡加名恵

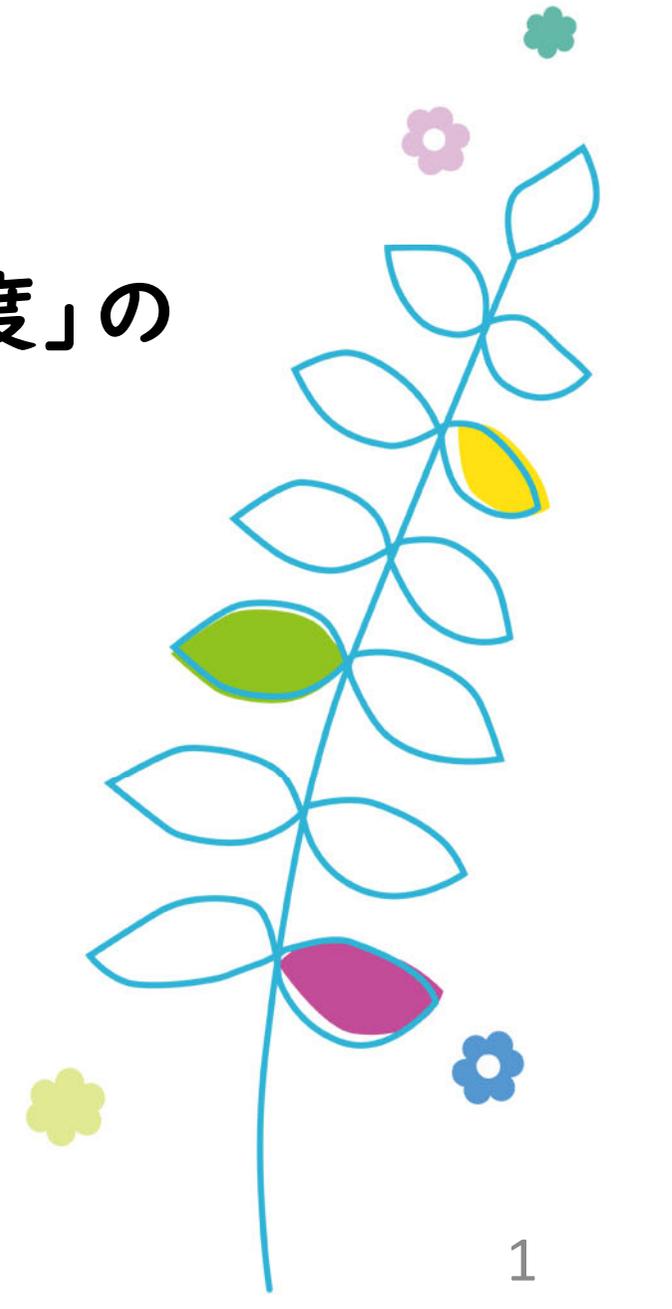


それではご覧ください



「主体的に学習に取り組む態度」の 評価をどう考えるか？

2024年8月1日
京都大学 西岡加名恵





<自己紹介>

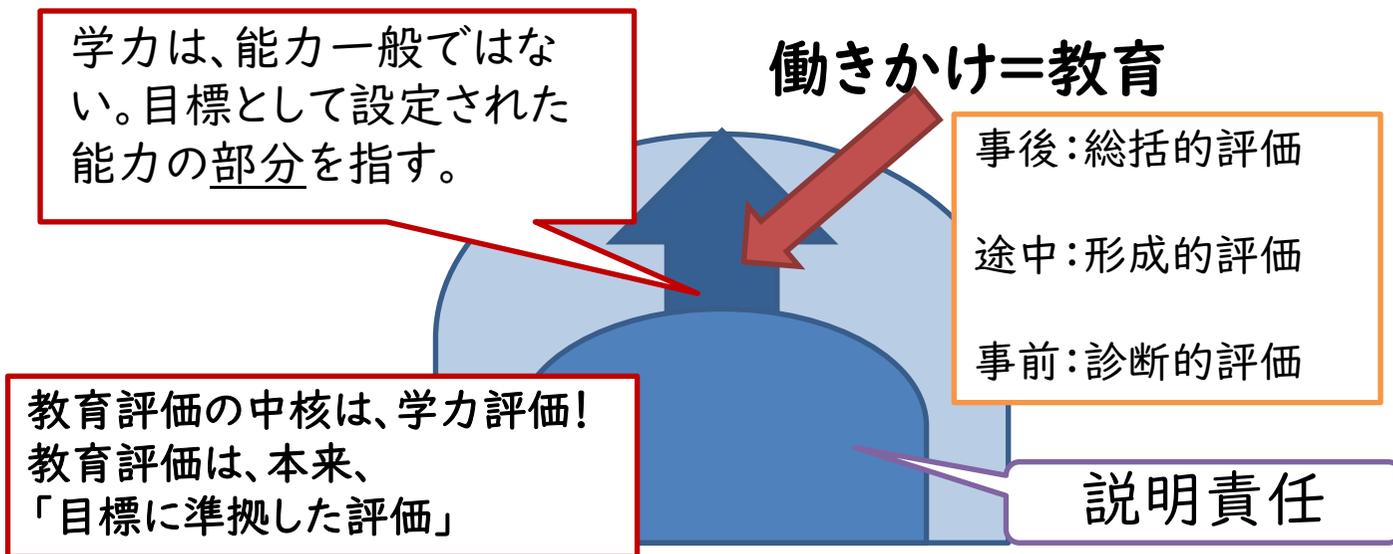
- 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)。
- パフォーマンス評価(パフォーマンス課題、ルーブリック、ポートフォリオ評価法)を用いたカリキュラム改善などについて研究している。
- 京都大学大学院教育学研究科E.FORUMの講師と運営を担当(<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>)。
- 日本学会議第26期会員。
- 日本教育学会近畿地区理事、日本教育方法学会理事、日本カリキュラム学会理事、教育目標・評価学会代表理事など。
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～2014年3月)、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業の今後の方向性等に関する有識者会議」委員(2020年4月～2021年3月)、内閣府 第3期SIP課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」サブプログラムディレクター(2023年4月～2024年3月)、文部科学省 教育研究開発企画評価会議協力者(2023年11月～2024年10月)、文部科学省 中央教育審議会 教育課程部会 臨時委員(2023年12月～2025年3月)など。

1. 学力評価計画の立て方

(1) 学力評価を巡って、ありがちな、いくつかの誤解

- 評価といえは、子どもの能力を測るものである。
- 評価といえは、成績づけのことである。
- 評価は、日常の指導とは切り離された特別な場面（テスト）のみで行われる。
- 「指導と評価の一体化」のため、日常的な評価をすべて成績づけに反映させなくてはならない。

(2) 学力評価とは何か





(3) 「目標に準拠した評価」の意義と課題

- 指導の前に、目標を明確にする
- 目標と照らし合わせて評価する
- 指導を改善する
（「指導と評価の一体化」）
- すべての子どもに
学力を保障する

△目標・評価規準（基準）を
どう定めればいいのか？

△どんな評価方法を用いればい
いのか？

△目標に教育が縛られる？

Cf. ゴール・フリー評価
羅生門的アプローチ

(4) “目標分析”の問題点

	単元1	単元2	単元3	...	総括的評価
主体的に学習に取り組む態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	...	合計・平均
思考・判断・表現	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	...	合計・平均
知識・技能	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	...	合計・平均

- 目標が限りなく細分化。⇒ 多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力（思考力・判断力・表現力等）」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提?!
←形成的評価（授業改善のための評価）と総括的評価（指導後の状況を記録するための評価）の区別がついていない。

(5) 「逆向き設計」論

求められている結果
(目標)を明確にする

修了時をイメージする

承認できる証拠
(評価方法)を決定する

指導の前に評価方法を
計画する

学習経験と指導を
計画する

◎「理解の6側面」

- ・ 説明する
- ・ 解釈する
- ・ 応用する
- ・ パースペクティブ(俯瞰)を持つ
- ・ 共感する
- ・ 自己認識を持つ

◎「真正の評価」論

現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの

(G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

(6) 学力評価計画の立て方：“三次元モデル”

観点	評価方法	単元1	単元2	...	単元X	単元Y	総括的評価
主体的に学習に取り組む態度	パ課題						到達レベル(質)
思考力・判断力・表現力			○		◎		
知識・技能	筆記／実技テスト	○	○		○	○	到達レベル(量)

類似の課題を
少しずつレベルアップしながら
繰り返し与える。

ルーブリック

チェックリスト

評価の観点と評価方法との対応関係についての
決定権は、各学校にある。
(教育委員会の指針が規定している例もある。)

◎学力評価計画を評価する視点

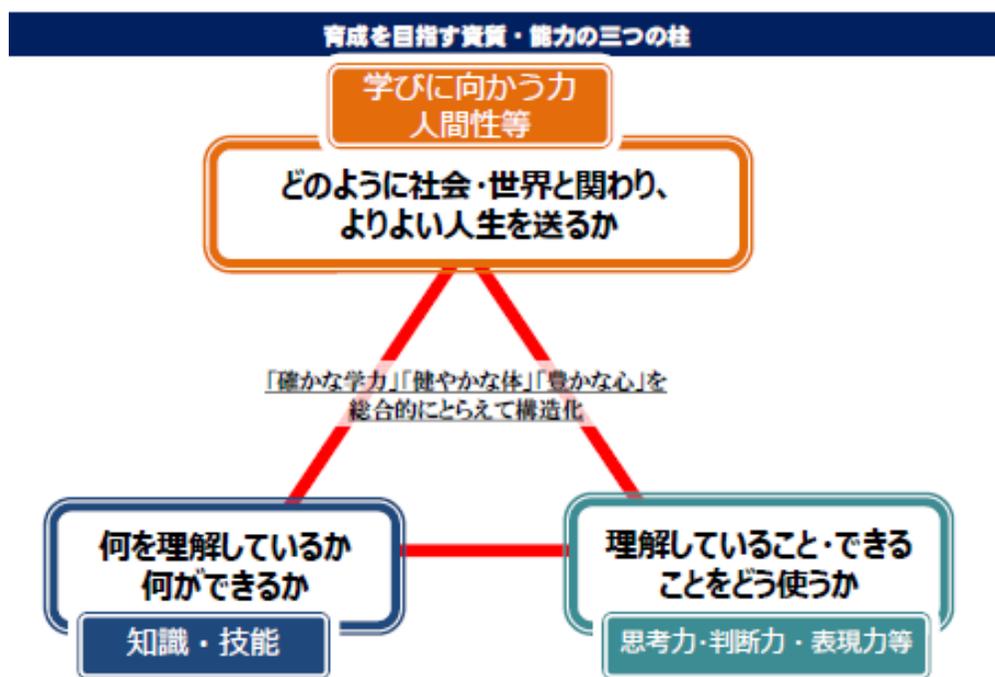
- カリキュラム適合性 ← 妥当性
- 比較可能性 ← 信頼性
- Cf. スタンドアード：社会的に共通理解された目標・評価基準
- 公正性：平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、公表と承認の原則
- 実行可能性

(西岡加名恵「教育評価の方法原理」田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)

2. パフォーマンス評価の活用の推進

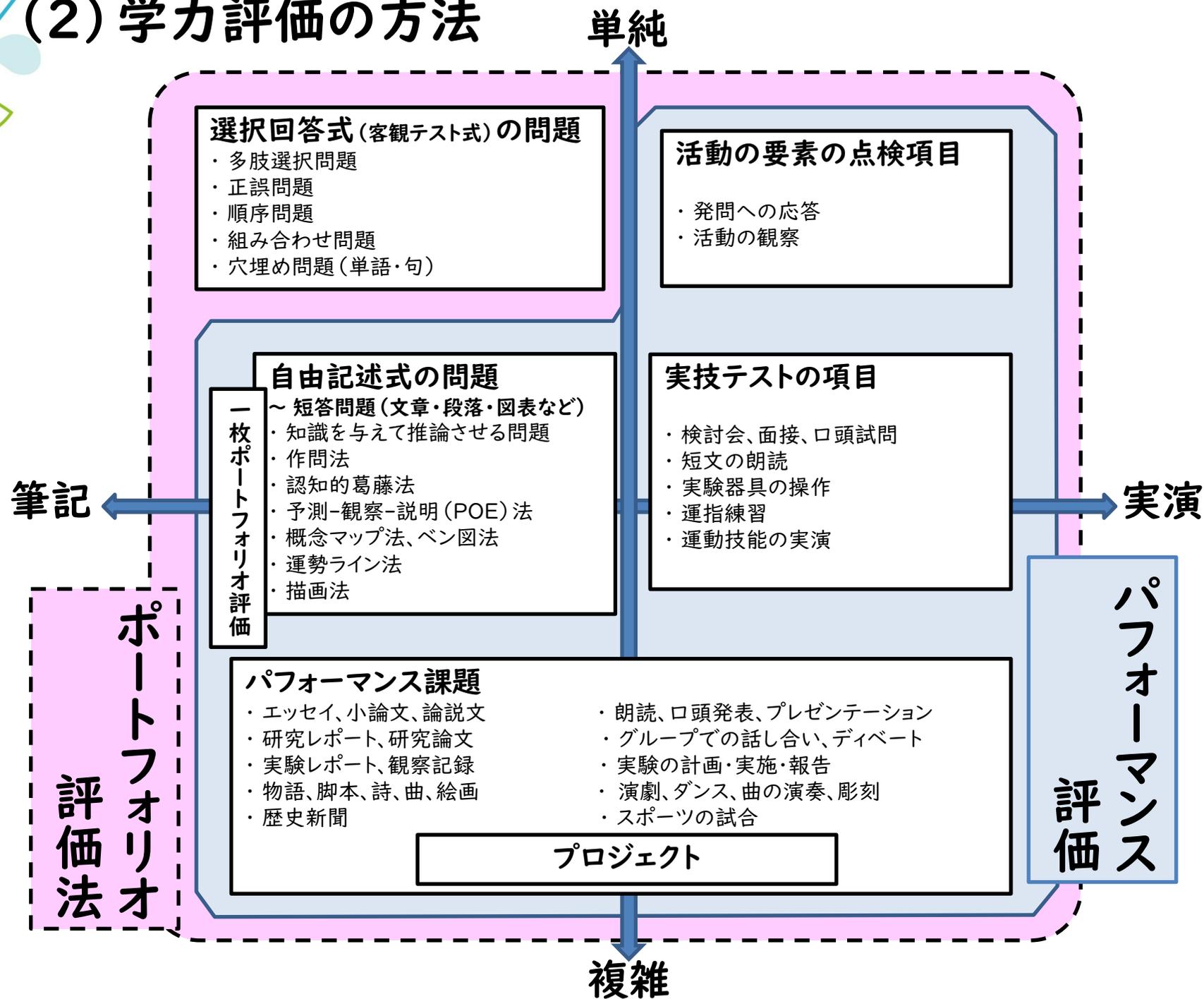
(1) 2017・2018(平成29・30)年改訂学習指導要領

資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。



(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

(2) 学力評価の方法



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83参照)



(3) パフォーマンス評価とは・・・

- 知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合する）ことを求めるような評価方法（問題や課題）

※「**真正の学力**」：①単なる暗記・再生ではなく、知識そのものを生み出す、
②訓練された探究を行う、③審美的・実利的・個人的な価値を持つ

← **学力観の転換**

（F.M.ニューマン、渡部竜也他訳『真正の学び／学力』春風社、2017年）

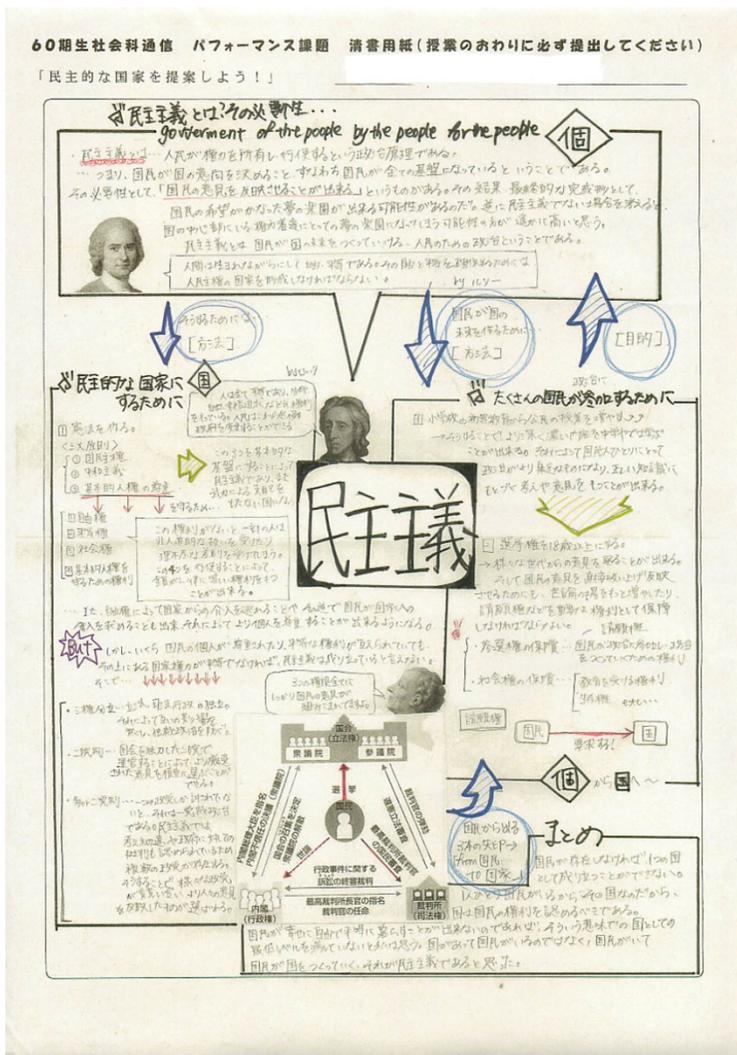
※「**真正の評価**」論：現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの

(4) パフォーマンス課題とは・・・

- **様々な**知識やスキルを**総合して**使いこなすことを求めるような、**複雑な**課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった**完成作品（プロダクト）**や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった**実演（狭義のパフォーマンス）**を評価する課題。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年）

●中学校・社会科 「民主的な国家を提案しよう！」



(三藤あさみ「検討会で関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

●高校・理科 「薬中の解熱剤・添加剤の特定」



あなたは、製薬会社の研究員です。他社の解熱剤の有効成分と薬中に含まれる添加剤等を調べ、上司に報告することとなりました。各自(班)で実験を計画し、実施して報告してください。

(広島県立広島高等学校 福本洋二先生の実践。福本洋二「化学と日常生活との関係を深く探究する——单元『高分子化合物の性質と利用』」西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集』学事出版、2020年、p.103)

(5) 目標と評価方法の対応

A) 次の文の空欄に適切な言葉を書きなさい。

サンフランシスコ近郊の()は、コンピュータ関連産業の中心地である。

(筆者作成)

B) アメリカの工業の特色は、どのようなものでしょうか。地図帳の統計資料で工業製品の種類や輸出量を調べて、まとめてみましょう。

(『新しい社会 地理』東京書籍、2016年、p.104、および『社会科 中学生の地理』帝国書院、2016年、p.118を参照して筆者作成)

C) あなたは、ある自動車会社の海外事業展開部のチームの一員です。あなたの会社では、電気自動車(EVあるいはPHEV)の生産、販売において、海外進出を計画しています。[様々な地理的条件を踏まえつつ]どこの国に事業展開していくかを提案してください。

(熊本大学教育学部附属中学校 小田修平先生の実践)

D) 皆さんに、地域や人々を幸せにする方法を提案してもらいます。地域の特色について3~5人のグループで、フィールドワークにより調査したうえで、企画を考え、提案してください。

(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校の実践をふまえて、筆者作成)

Cf. 山本吉次「SGHと探究学習の実践」E.FORUM教師力アップ研修「探究力をどう育成するか」2015年3月28日、https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/148/?video_id=1740

事
実
的
知
識

資
料
活
用
の
ス
キ
ル

知
識
・
技
能

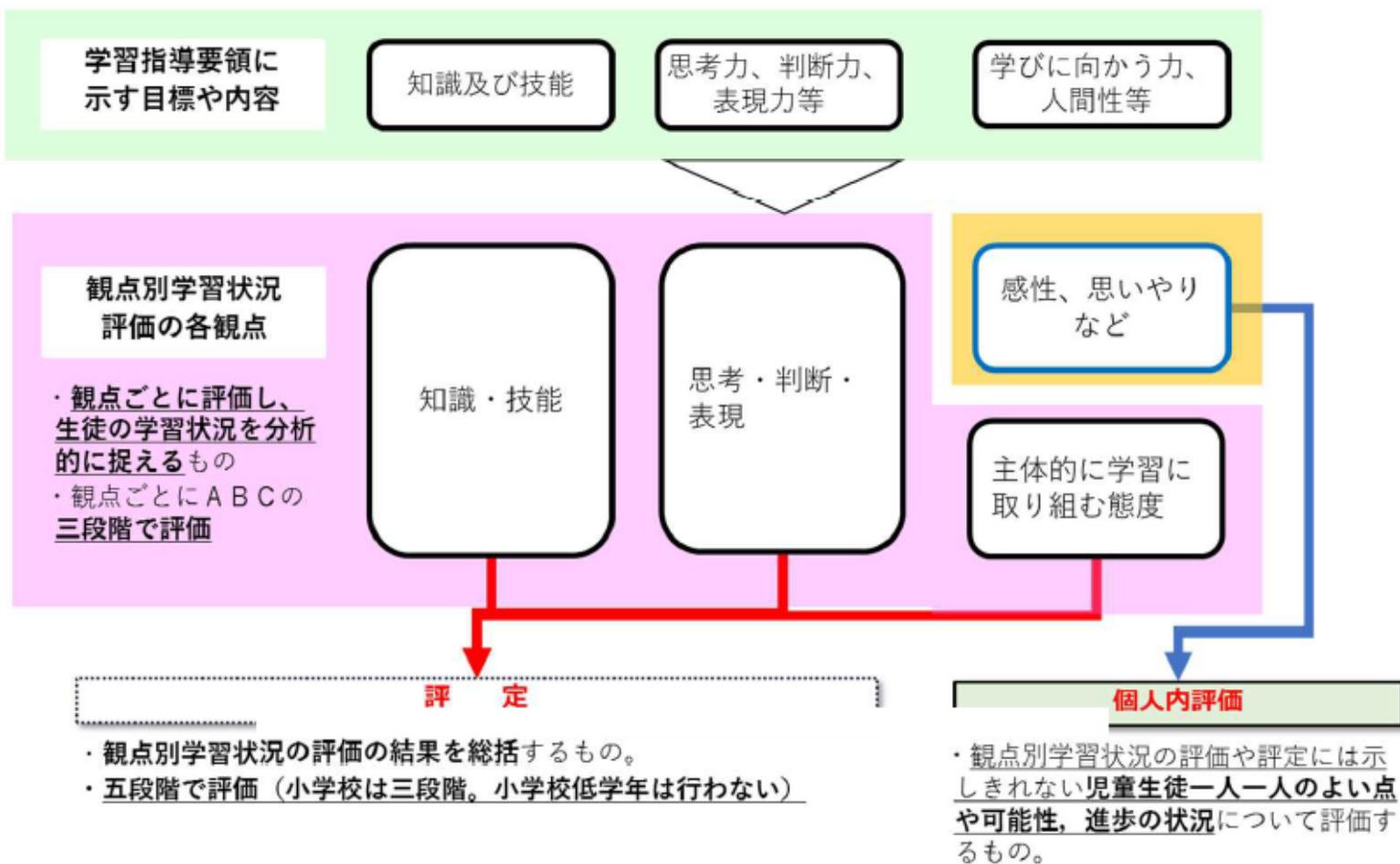
知識・技能を活用し、「産業の発展に地理的な条件はどのように影響するのか?」に関して思考・判断したことを表現する。
(思考・判断・表現)

生徒自身が課題設定。「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」にダイレクトにかかわる。複数教科の「見方・考え方」などを総合。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (1) 2019(平成31)年改訂指導要録の方針

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

(2) 「学習評価の在り方ハンドブック」

コラム

「主体的に学習に取り組む態度」は、「関心・意欲・態度」と同じ趣旨ですが…
～こんなことで評価をしていませんか？～

平成31年1月21日 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価について指摘されている課題として、「関心・意欲・態度」の観点について「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的

に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。これを受け、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。

Column

「評価の観点のうち『主体的に学習に取り組む態度』については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。」(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

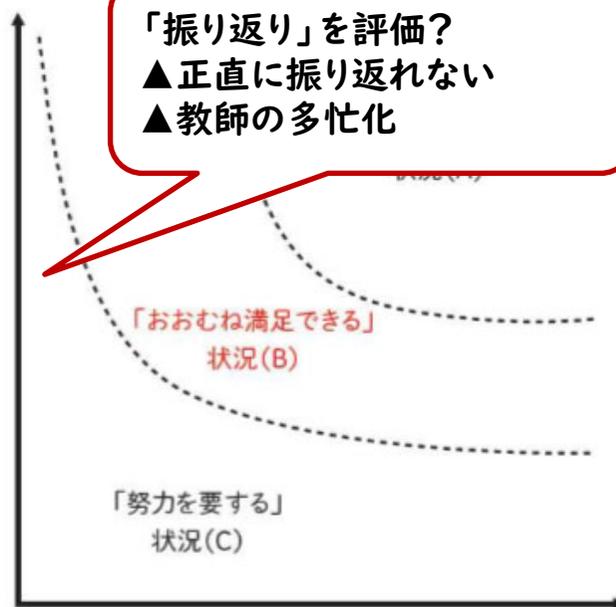
具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いるなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

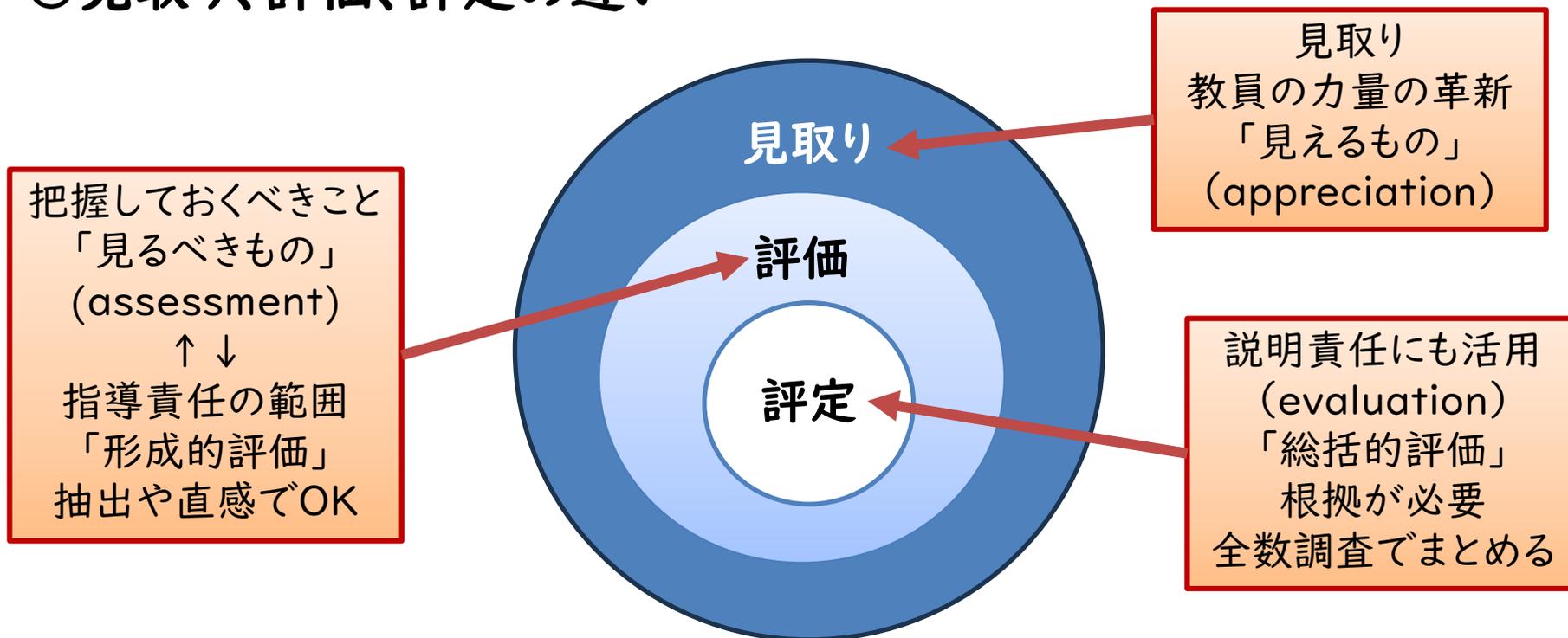
形式的な活動？！



(3) 「主体的に学習に取り組む」態度の成績づけ

- 現場の先生方は、非常に悩まれている。
- 特に、3観点を3分の1ずつの重みづけで評価するように教育委員会が指導している都道府県では、大きな混乱（困難、形骸化）が生じている。

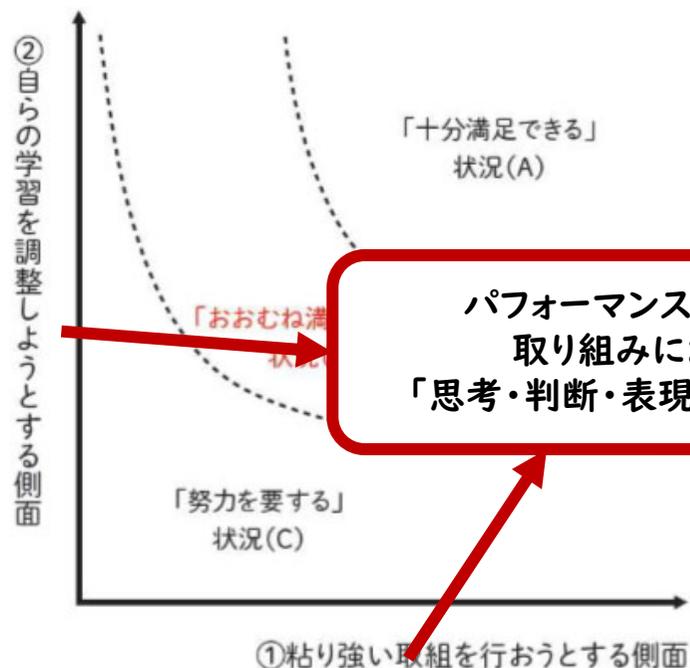
◎見取り、評価、評定の違い



「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

(4) 「主体的に学習に取り組む態度」の成績づけをどうするか？

※本来、「思考・判断・表現」と表裏一体なので、**便宜上、区別するしかない。**

- 案1: 小規模なパフォーマンス課題で「思考・判断・表現」を、学習者自身が授業内容を発展させて取り組むようなパフォーマンス課題で「主体的に学習に取り組む態度」を見る？
- 案2: 1つのパフォーマンス課題で、2つの観点を見る？

表

表3 課題「私が尊敬する人」のルーブリック

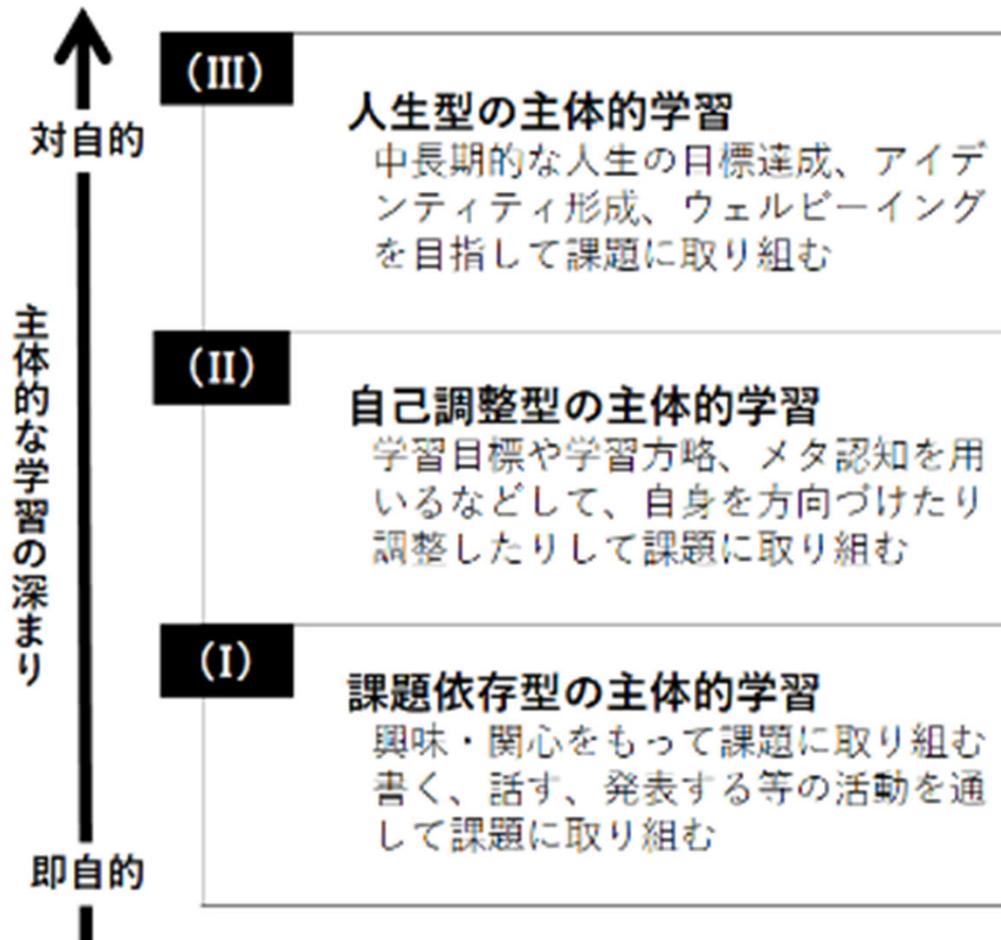
		内容	英語表現
A	4	自分の感じたこと、考えたことなどを、理由や例をあげ、自分のことと関連づけながら伝えようとしている。	かなり長い英文が、少しの間違いはあるものの、ほぼ正確に書けている。また、自分の考えを伝えるための適切な表現をしている。
	3	自分の感じたこと、考えたことなどをはっきりと伝えようとしている。	それぞれの文は短いですが、適切な表現を用い、語順などが正確に書けている。
C	2	調べた事実はわかるが、自分の考えがあまり伝えられていない。	単純な文は書けているが、少し複雑になると適切な表現が用いられておらず、語順などに正確さを欠く。
	1	調べた事実も内容が乏しく、自分の考えが伝わってこない。	全体的に語順が不正確で、適切な表現が用いられていない。大文字、小文字、符号なども不正確な部分が少なからず見られる。

(森千映子「自分の考えを自分の言葉で表現する」西岡加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書, 2008年, p.114)

※「思考・判断・表現」の観点と統合してしまえば、解消される悩み!

(5) 本来、育てるべき「主体性」とは何か

◎主体的な学習スペクトラム



- 「主体性 (agency) とは、『行為者 (主体) から対象 (客体) へとすすんではたらきかけるさま』と定義される」

図3 主体的な学習スペクトラム

(溝上慎一「(理論) 主体的な学習とは——そもそも論から「主体的・対話的で深い学び」まで」
[http://smizok.net/education/subpages/a00019\(agentive\).html](http://smizok.net/education/subpages/a00019(agentive).html))



◎「主体性」のタキソノミー (学びや活動への関与と所有権の拡大のグラデーション)

特別活動	自治(変革人:エージェンシー)	社会関係を創りかえる	出口の情意
		対象世界を創りかえる	
総合学習	人間的成熟(なりたい自分:アイデンティティ)	軸(思想)の形成	↑ ↓
		視座の高まり	
	自律(探究人:こだわり)	自分事への問いの深化	
教科学習	学び超え(生涯学習者・独立的学習者)	問いの生成	
		思考の習慣(知的性向)	
教科学習	学習態度(自己調整学習者・知的な初心者)	関心の広がり	
		方略的工夫	
	関心・意欲	試行錯誤	
	表面的参加	積極性(内発的動機づけ)	
		受身(外発的動機づけ)	入口の情意

(石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化社、2023年、p.57)



(6) 「主体的に学習に取り組む態度」の成績づけの在り方

- 各教科において、観点「主体的に学習に取り組む態度」は、観点「思考・判断・表現」に統合する。
 - 「主体的に学習に取り組まないと、成績を下げるぞ…」と言われて発揮される「従順さ」が、本当に目指したい「主体性」なのか？
 - 先生方の成績づけの悩みを減らし、児童生徒が真に主体的に思考・判断・表現できるような授業への改善にこそ、力を注ぐべき。

Cf. ICTを活用した際に残る「ログ」は、あくまで低次の「主体性」に過ぎない。
→教師への忠誠競争、学校の同調圧力・圧迫感を強化する懸念。
- より高次な意味（エイジェンシー、アイデンティティなど）での「主体的に学習に取り組む態度」を育てたいという目標を設定するとすれば、**カリキュラム全体として育てているかを見る**べきであり、それが育てているかどうかは、「**総合的な学習（探究）の時間**」等での姿（**ポートフォリオ**）で見える。
 - 網羅的に見る発想から、最良の出来栄を見る（子ども自身が発信する機会を保障する）発想へ。
- どうしても「勤勉さ」を見たいなら、「行動の記録」欄を活用する。
 - 学業成績に合算してしまうと、学力の実態が捉えられない。

◎カリキュラム横断での力量形成

表5-9 イギリスにおける「より幅広い鍵スキル」のルーブリック (ASDAN, 2014を踏まえて筆者作成)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
他者との協働	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 与えられた目標を理解していることを確認し、一緒に作業するための計画を立てる ● 与えられた目標の達成に向けて、他者と一緒に作業する ● 自分が物事の達成を助けた方法と、他者との作業を改善する方法を確認する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他者と一緒に作業する計画を立てる ● 特定された目標達成に向けて、協同して作業する ● 自分の貢献を再検討し、他者との作業を改善する方法について同意する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他者と一緒に作業する計画を立てる ● 協同を発展させようとし、同意された目標に向けての進展を点検する ● 他者との作業を再検討し、将来の協同作業の改善方法に合意する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他者と一緒に作業するための方略を開発する ● 進展をモニタリングし、同意された目標を達成するための方略を適合させる ● 自分の方略を評価し、他者との作業から得られた成果を提示する
自分の学習とパフォーマンスの向上	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の目標を確認し、それを設定した人の支援をうけつつ、それらを達成する方法を計画する ● 目標への達成を助けるために計画に従い、パフォーマンスを向上させる ● 適切な人の支援を受けつつ、自分の進展と達成事項を再検討する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適切な人の支援を受けつつ目標を設定するのを助け、それらを達成する方法を計画する ● 目標を達成し、自分のパフォーマンスを改善する助けとするために計画を用いつつ、自分の学習に関するいくつかの決定について責任を取る ● 適切な人の支援を受けつつ進展を再検討し、自分の達成事項についての証拠を提供する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適切な人々から得られた情報を用いて目標を設定し、それらを達成する方法を計画する ● 目標を達成し、自分のパフォーマンスを改善する助けとするために計画を用いつつ、自分の学習についての責任を取る ● 進展を再検討し、自分の達成事項についての証拠を確立する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の学習とパフォーマンスを改善するための方略を開発する ● 進展をモニタリングし、自分のパフォーマンスを改善するための方略を適合させる ● 自分の方略を評価し、学習の成果を提示する
問題解決	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 与えられた問題を理解していることを、適切な人の支援を受けつつ、それに取り組む様々な方法を明確にする ● 自分が何をやるかについて、適切な人の支援を受けつつ確認し、問題解決のための計画に従う ● 問題が解決されたかどうか、ならびに問題解決スキルをどのように改善できるかを、適切な人の支援を受けつつ点検する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適切な人の支援を受けつつ、問題を特定し、それに取り組む様々な方法を明確にする ● 問題解決のための方法を少なくとも一つ計画して試しにやってみる ● 問題が解決されたかを点検し、自分の問題解決スキルを改善する方法を特定する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題を探究し、それに取り組む様々な方法を明確にする ● 問題解決のための方法を少なくとも一つ計画して実施する ● 問題が解決されたかを点検し、問題解決のための自分のアプローチを再検討する 	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決のための方略を開発する ● 進展をモニタリングし、問題解決のための自分の方略を適合させる ● 自分の方略を表し、自分の問題解決スキルの成果を提示する



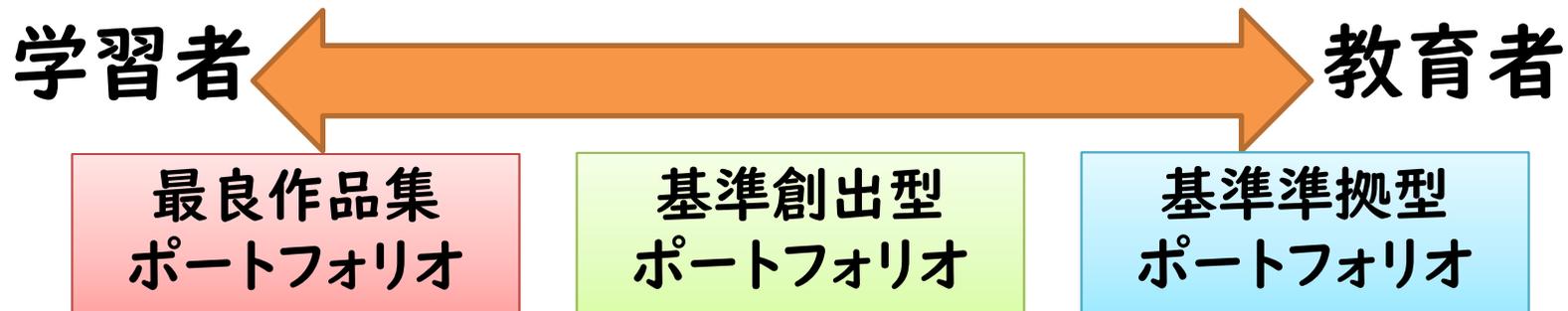
(7) ポートフォリオ評価法の活用

◎ポートフォリオ評価法とは・・・

- ポートフォリオ：学習者（児童・生徒や学生）の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

◎所有権（Ownership）：

収める作品や評価基準の決定権

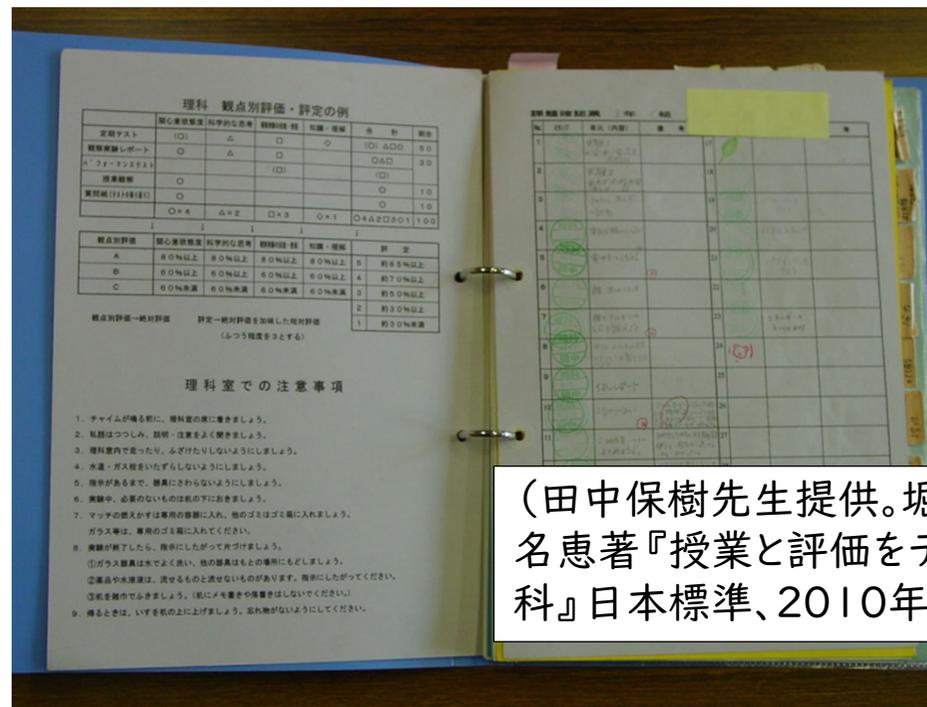
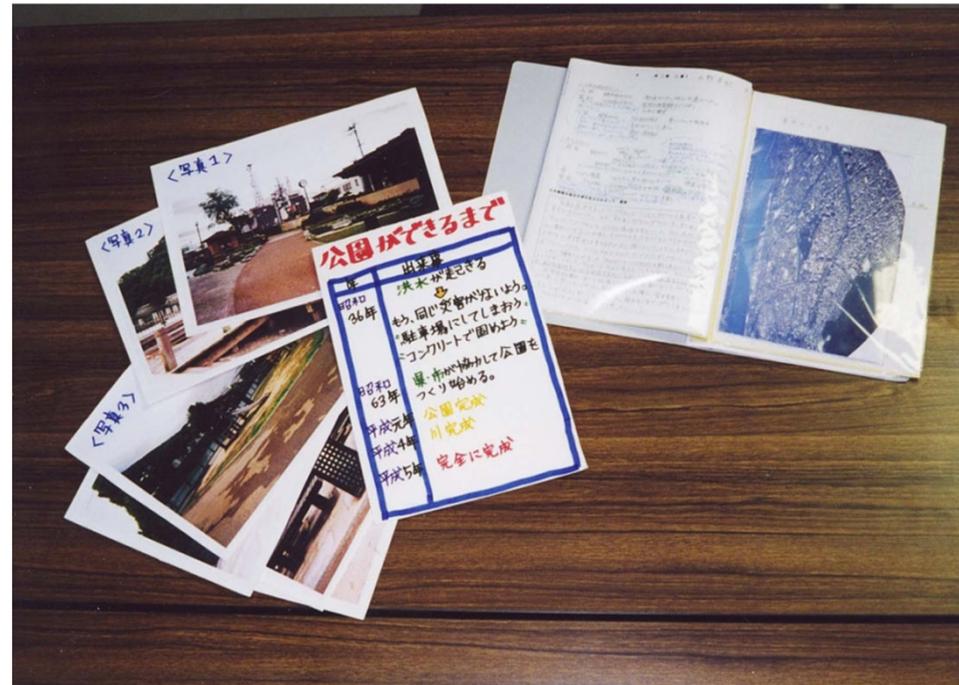


（西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年）



◎日本での実践例

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年)



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

◎大学入試でポートフォリオが使われる例も・・・

Cf.「AOと推薦による全国の大学入学者は21年度に50.3%と初めて半数を超えました。」(「偏差値時代終焉へ、大学一般入試なぜ減少?」『日本経済新聞』2022年8月15日)

(例) 京都大学教育学部の特色入試

<第1次選考>書類選考

「学びの報告書」「学びの設計書」

平成28年度京都大学特色入試

教育学部用

学びの報告書 ※

※印の欄は記入しないでください。

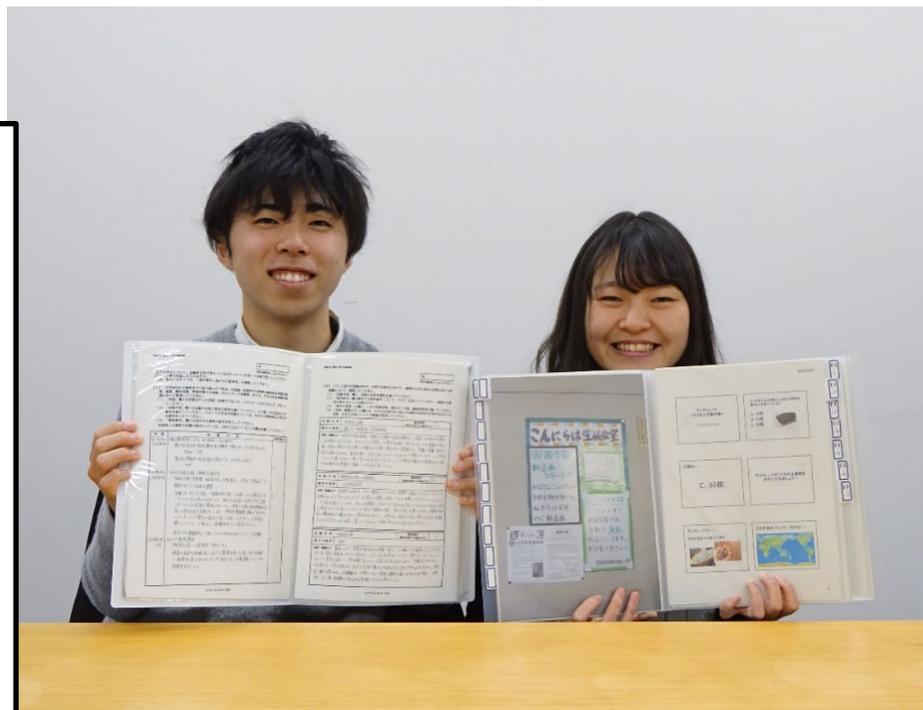
志願者氏名

(フリガナ)

以下の項目について、志願者自身が黒のペン又はボールペンを用いて自筆で記入してください(パソコン等で作成したものは不可)。

【1】 中学時代から現在までに取り組んだ「まなび」の活動(各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等)のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。また、その成果を示す資料(表彰状、論文、研究発表資料、新聞記事等。いずれもコピー(A4判)にて可。)を添付する場合は、対応する資料番号を明記してください。

時期	活動内容	資料番号



<第2次選考>

課題と口頭試験

<第3次選考>

センター試験／共通テスト

「様々な活動をまとめてみることで、活動の間にあったつながりや自分の特長に気づきました」(大平優斗さん)、「自分が達成できたことや自分の価値観の変化にも気づき、将来、挑戦したいことを思い描くことができました」(小山田遥さん)

◎取り組む上でのポイント

① 学習者と教師で見通しを共有する。

- なぜ、作るのか？ 意義は何か？
- 何を残すのか？
- いつ、どの期間で作るのか？
- どう活用するのか？



② 蓄積された作品を、編集する（整理・取捨選択する）。

- ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
- 検討会で見せる作品を選ぶ。
- 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。



③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。

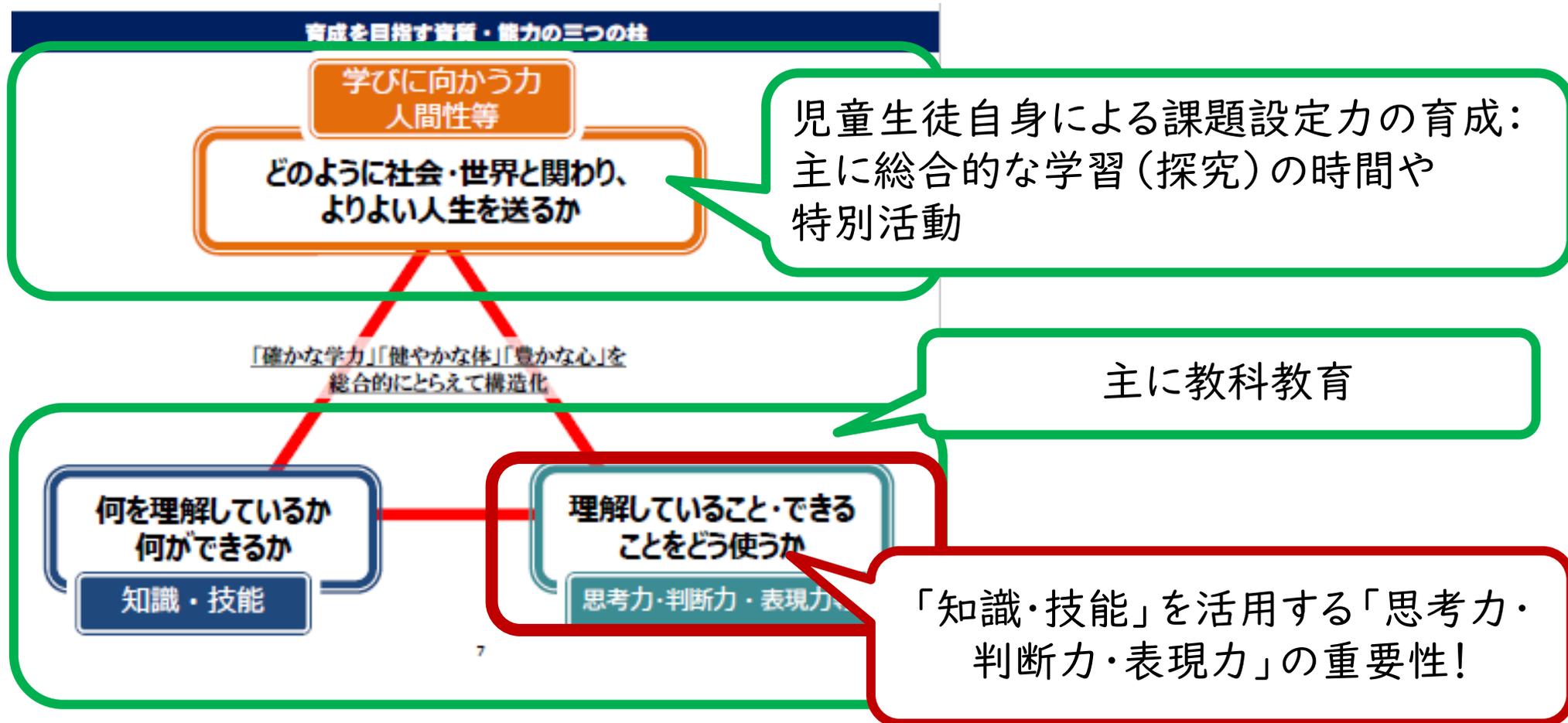
- 見通しを持つ。
- 到達点と課題、次の目標を確認する。
- 成果を披露する。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年）

写真（上）：宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編——「対話」を通して思考力を鍛える！』日本標準、2004年参照／（下）：西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年参照

(8)「資質・能力」の三つの柱を踏まえた今後の展望

◎領域ごとの役割分担の明確化



(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

◎学校で育成する資質・能力の要素の全体像を捉える枠組み

(石井英真『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』日本標準、2015年)

		資質・能力の要素(目標の柱)			
能力・学習活動の階層レベル(カリキュラムの構造)		知識	スキル		情意(関心・意欲・態度・人格特性)
			認知的スキル	社会的スキル	
教科等の枠づけの中での学習	知識の獲得と定着(知っている・できる)	事実的知識、技能(個別的スキル)	記憶と再生、機械的実行と自動化	学び合い、知識の共同構築	達成による自己効力感
	知識の意味理解と洗練(わかる)	概念的知識、方略(複合的プロセス)	解釈、関連付け、構造化、比較・分類、帰納的・演繹的推論		内容の価値に即した内発的動機、教科への関心・意欲
	知識の有意意味な使用と創造(使える)	見方・考え方(原理と一般化、方法論)を軸とした領域固有の知識の複合体	知的問題解決、意思決定、仮説的推論を含む証明・実験・調査、知やモノの創発(批判的思考や創造的思考が深く関わる)	プロジェクトベースの対話(コミュニケーション)と協働	活動の社会的レリバンスに即した内発的動機、教科観・教科学習観(知的性向・態度)
学習の枠づけ自体を学習者たちが決定・再構成する学習	自律的な課題設定と探究(メタ認知システム)	思想・見識、世界観と自己像	自律的な課題設定、持続的な探究、情報収集・処理、自己評価	人間関係と交わり(チームワーク)、ルールと分業、リーダーシップとマネジメント、争いの処理・合意形成、学びの場や共同体の自主的組織化と再構成	自己の思い・生活意欲(切実性)に根差した内発的動機、志やキャリア意識の形成、
	社会関係の自治的組織化と再構成(行為システム)	人と人との関わりや所属する共同体・文化についての意識、共同体の運営や自治に関する方法論	生活問題の解決、イベント・企画の立案、社会問題の解決への関与・参画		社会的責任や倫理意識に根差した社会的動機、道徳的価値観・立場性の確立

※太字部分は、それぞれの能力・学習活動のレベルにおいて、カリキュラムに明示され中心的に意識されるべき目標の要素。

※認知的・社会的スキルの中身については、学校ごとに具体化すべきであり、学習指導要領等で示す場合も参考資料とすべきだろう。

情意領域については、評定の対象というより、形成的評価やカリキュラム評価の対象とすべきであろう。



<主要参考文献>

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年
- ③ 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年
- ④ 西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書、2016年
- ⑤ 西岡加名恵・石井英真編著『Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年
- ⑦ 奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年
- ⑧ 西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集』学事出版、2020年
- ⑨ 西岡加名恵・石井英真編著『学力テスト改革を読み解く! 「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価』明治図書、2021年
- ⑩ 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著『新しい教育評価入門(増補版)』有斐閣、2022年
- ⑪ 西岡加名恵・大貫守編著『高等学校 「探究的な学習」の評価』学事出版、2023年
- ⑫ 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵『子どもと教師のウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2024年